



中藤っ子

LOVERS

令和6年度 No. 6
福井市中藤小学校だより
発行日 令和6年 9月30日(月)
〒910-0837 福井市高柳 3-3001
TEL:54-3823 FAX:54-3874

ひと月遅れの処暑が過ぎ、1学期も残りわずか…

台風14号が温帯低気圧に変わり、秋雨前線と影響し合っ線状降水帯となり、石川県能登地方に豪雨を降らせ、多大な被害が出ました。この中藤島地区も、76年前の福井地震の後に襲来した台風によって九頭竜川堤防が決壊し、洪水の被害に遭った歴史から考えますと、他人事とは考えられません。被災された方にはお見舞いを、また、亡くなられた方とそご遺族には心からお悔やみ申し上げます。

さて、酷暑続きだった9月も下旬になって、ようやく涼しい秋風がそよぐ季節となりました。秋季校内体育大会も、昨年に比べ1週間遅らせたことが功を奏し、熱中症を気にせず練習できるようになりました。10月3日の本大会は、「児童の、児童による、児童のための体育大会」にしたいと考えており、自分たちで行動できる体育大会を目指そうと、先日のお昼の放送でも全校児童に呼びかけました。赤・青・黄・白の4色組に分かれて、児童がどんな姿を見せてくれるのかが楽しみです。また、10月10日には、1学期終業式を迎えます。これまでの努力に対して、児童へわりと励ましのお声かけをお願いします。



(文責：勝木)

ある日の出来事から

カンカン照りにも暑さにも負けず…

～ 夏休み明け 授業再開 ～

8月27日、38日間の夏休みが終わり、児童の歓声が学校にもどってきました。心配された台風も進路を変え、直射日光を遮る厚い雲となま温かい風の中、児童は元気に登校してきました。

全校朝礼は、熱中症を防止するために教室に入ってテレビ放送で行いました。校長講話では、金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」を紹介しながら「個性」や「平等と公平」について話をしました。また、生徒指導からは、夏休みを「勉強・手伝い・遊び・健康」の面からふりかえりました。

教室に戻ってからは、夏休みの思い出を紹介したり、課題を出したりしました。久々に友達と会えて、うれしそうでした。



ニュースポーツで交流しました ～福井市小学校スポーツフェスタ～

9月18日、福井運動公園セーレン・ドリームアリーナ(県営体育館)で、福井市小学校スポーツフェスタが開かれました。6年生は午後の部に参加しました。小学校スポーツフェスタは、熱中症対策の一環で、昨年から小学校連合体育大会をリニューアルしました対外行事です。従来の陸上競技の記録会ではなく、ニュースポーツを通して児童の交流を深めることをめあてに実施しています。

児童は一人2種目(ボッチャとフライングディスクまたは卓球バレーとスティックリング)にチャレンジしました。交流は、社西小学校や清明小学校、順化小学校など7校の児童と、スポーツで対戦しながら深めました。

陸上競技場では、熱中症指数が高かったため運動はできませんでしたが、競技場の雰囲気には触れることができました。

児童にとって良い思い出ができたのではないかと思います。



体育大会に向けて、役割を果たそう！ ～ 体育大会 全校練習、始まる ～

9月25日2～3限目に体育大会に向けて色別パフォーマンスの全校練習がありました。団長の指示のもと、各色組とも一生懸命練習していました。この体育大会は、児童が主役、自分たちで行動できる大会を目指しています。そのために、①練習の時、先生やリーダーの話をよく聞くこと、②どうするか考えながら行動すること、③自分のことと考えて、習ったことを覚え忘れないことが大事だと伝えました。

今日の練習は、6年生のリーダーが自分たちでしっかり進めていました。本番が楽しみです。



切磋琢磨し授業力を高め合うために ～ 校内 授業協働研究 ～

本校では、教員の授業力向上のために、学年ごとに協働研究に取り組んでいます。

9月26日は、1年生協働研究として、1年1組で国語の授業がありました。「うみのかくれんぼ」という説明文教材の単元で、「考えたくなる課題設定や発問の工夫」をテーマにして研究が行われました。「もずくしゅい」という生き物について、動画を見て興味をもたせたり、からだやかくれ方などの特徴を文章から読み取らせたりしました。児童も、自分で見つけたりグループで話し合ったりしながら学習を進めていました。



校長室から ～日本人が苦手な「叱り方」、一気に上達する5つの秘訣～

人を育成するためには、「褒める」ばかりではなく、きちんと「叱り」、「間違いを正してもらう」ことも必要です。しかし、現代人の「正しく叱る力」は著しく低下しているようにも感じます。子育てや人材育成に欠かせない「褒め方」「叱り方」なども、実は多くの研究論文があり、その効果が実証されています。例えば、「褒める」と「叱る」のベストバランスがあるのをご存じでしょうか。そのほか、「叱り方」の秘訣をあげましたので、ご参考までに。

[1] 1回叱ったら、6回は褒める

[2] 「褒めるとき」と「叱るとき」は、きっちり分ける

日本で最近、人気の「叱るときは、『褒める→叱る→褒める』の順にするサンドイッチ話法」も、実は「時代遅れ」という説が有力。聞き手は「褒められた後には、何か叱られるのでは？」と思い込み、ただ褒められるべき場面でも、素直に受け入れられなくなってしまうから。

[3] 「叱り方5大NG」をやめる

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| ① ダメ出し ：何に対してもとにかく否定ばかりする | ② 押しつけ ：自分の意見を押しつける |
| ③ 決めつけ ：根拠なく、思い込む | ④ 長々とした説教 |
| ⑤ 感情的に怒りをぶつける | |

[4] 「あなたを信じ、あなたのことを思っている」ことを伝える

相手に「攻撃されているとの思い」を感じさせないこと。叱る相手に「あなたを信じ、あなたのことを思っている」「期待しているから叱る」ということをしっかりと理解してもらうことが大切。

[5] 叱り方に「4大要素：①叱るべき事実 ②なぜ、それがダメなのか（理由） ③それについて自分はどう思うか（主観） ④解決策を提示させる」を入れる

(例) 親：「部屋、汚いよね **(事実)**。ごみを捨てないと、ゴキブリが来るよ。昨日、ベランダで見かけたから、このままだとまずいよ **(理由)**。お客さんが来るから明日までに片付けてもらえると、とってもうれしいな **(主観)**。何から先に片付ける？ **(解決策を提示させる)**」
子：「うーん。じゃあ、机から」

お願い 虫歯の治療は、お早めをお願いします

53.7%。これは、令和6年9月30日現在の本校のう歯（虫歯）の治療率です。つまり、46.3%の児童が、虫歯があっても治療を終えていない状態です。ちなみに昨年度の本校と福井市内小学校の治療率は、65.5%、67.7%でした。

虫歯は、進行の具合によって治療の「時間」も「費用」も大きく変わります。初期段階では削らなくても済む場合があるようです。一度溶けたり、抜けたりした歯は二度と元には戻りません。歯を残したいのであれば、感染が神経に及ぶ前に治療をお勧めします。また、乳歯の場合もその後の永久歯に影響しますので油断大敵です。